

異常気象で農産物に大打撃 被害額は21億7,600万円

●作況指数八三、戦後最悪の不作
 今年は六月から低温、長雨、日照不足が続き、新潟地方気象台では「今年の梅雨明け日は特定しない」とするなど、記録的な冷夏となりました。また、天候不順に加え台風の影響もあり、農作物は大打撃を被りました。稲の生育が大幅に遅れた上、いもち病が発生。農林水産省は、下越地区の米の作況指数を九四（九月十五日現在）と発表しました。

その後、白根市農政対策協議会が独自に緊急調査を行いました。その結果、十月十二日現在で、本市の作況指数は八三とかなり低い数値となっています。米の収穫量は



根が腐り、倒れてしまった稲

前年に比べ、全品種平均で十割当たり百十キロ、約一・八倍減少。これにより今年の米の総生産量は、前年に比べ約二四パーセント減少する見込みです。

農産物の被害額を計算すると、異常気象によるものが二十億一千二百万円。台風によるものが一億六千四百万円。合わせて二十一億七千六百万円となっています。この数値は今後一層悪化するものと思われまます。

●農業者の救済を求め
 農林水産省へ要請書提出
 今回の不作は、戦後、例のない最悪のものといえます。農産物の品質低下と収穫量の減少による農家の大幅な減収は、免れない事態となりました。米の盗難など不作を背景とした犯罪も発生しており、大きな社会問題となっています。

事態を重く見た農業委員会では、十月四日、農林水産省あてに「冷害に関する要請書」を提出。農業者の救済措置を求めました。

要請内容は、制度資金などの借入金の償還を猶予すること、転作を麦の種まき前に中止すること、災害資金の貸付枠の拡大と金利引き下げ、農業者年金保険料の減免などです。

農地面積が五千ヘクタールを超す農業地白根市。一刻も早い救済措置の実現が待たれています。

根岸小増築工事着工 児童数が急増

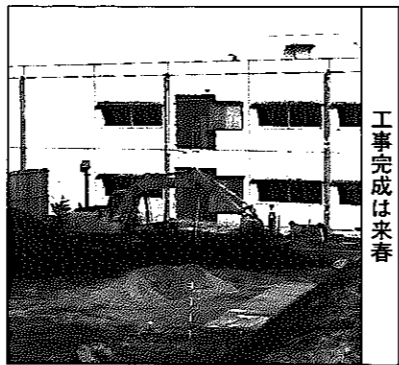
4つの教室を増築

根岸小学校の増築工事が始まりました。市街地化が進み、急増する児童数に対応するためのものです。同校の増築は、特別教室を増築した平成元年度の工事に続き二度目。

増築される校舎は鉄筋コンクリート二階建てで、建築延べ面積は四百四十六平方メートル。総工事費一億一千六百四十万円をかけて建設されます。これにより三つの普通



住宅が建ち並び、街並みが一変した根岸小周辺



工事完成は来春

教室と一つの特別教室が増築されます。

根岸地区は新潟市のベッドタウン化が進み、年々人口が増加。これに伴い、同校に通う児童数も、平成三年度は二百六十人、四年度は二百八十六人、五年度は三百一人と急増してきました。

同校の平成五年度の学級数は、全学年を合わせて十二。これに対し、普通教室は九しかありません。不足分は音楽室や図工室などの特別教室や会議室を転用して対応している状態。決して恵まれた教育環境とはいえ、早急な増築が必要となっていました。

このため市では、増築事業を今年度に予算化。測量などを行った後、八月二十七日に入札を執行し、落札。同日、請負契約を締結し、工事着手となりました。

増築される校舎は、来年三月に完成し、四月からの使用となります。

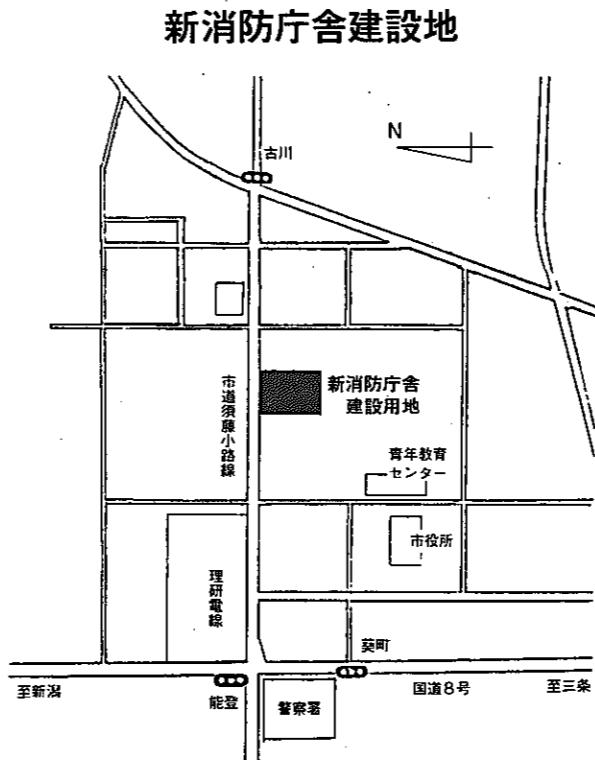
新消防庁舎 建設用地が決定

新消防庁舎の建設用地が決定しました。建設地は市道須藤小路線沿いで、所在地は大字能登六百三番地から六百七番地一まで。敷地面積は四千四百五十九平方メートルです。

現在の消防庁舎が建設されたのは昭和四十三年。以来二十五年が経過し老朽化が進んでいます。また、当時二十二人の職員も、現在では八十七人に増加。事務室がかなり手狭になっています。研修室がなく、仮眠室、駐車場なども狭いことから、職場環境の改善が問題となっていました。

このため白根地区消防本部では、庁舎移転を計画。出動に関連する交通状況、他の公共機関との連絡などを考慮し、建設地を決定。九月二十九日に売買契約書の調印式が消防署で行われました。

消防本部の捧消防長は「現在の災害はかなり多様化。対応も高度なものが求められるようになった」とした上で、「新庁舎では職員の研修、訓練の場を充実させ、どんな災害に対しても、万全の体制で臨めるようにしたい」と話しています。



日本損保協会消防車寄贈 地域防災のよりどころに

白根地区消防事務組合は(株)日本損害保険協会から消防ポンプ自動車一台の寄贈を受け、九月十三日、受納式が行われました。式では管理者を務める竹内市長が「この地域の防災行政は、火災対象物の急増などで苦慮している面がある。地域住民が安心して暮らせるよう、協会の事業目的に沿って、自動車を活用したい」とお礼の言葉を述べました。

同協会は損害保険会社二十五社で構成。広範にわたる損害保険事業は高い公共性を持つことから、地域の防災活動や交通事故防止事業に力を入れてきました。消防車の寄贈は火災予防事業の一環として行っているもので、今年度は全国で五十二台を寄贈。県内では見附、五泉に続いて三台目です。白根地区消防事務組合としては昭和五十四年度に次いで三台目。十四年前に寄贈された消防車が更新時期に差しかかっていたことから、同協会に寄贈を申請していました。

新しい消防車は一千五百五十万円相当の四輪駆動車。雪道でも安心です。また、油火災用消火機材などを積載し、毎分二千八百リットル以上の放水能力があります。消防車は「火災保険号白根」と命名され、早速、地域住民の生命、財産を守るよりどころにと願いを込めて試験放水が行われました。

